

国際スケート連盟

コミュニケーション第1874号

シングル&ペア・スケートティング

第55回 ISU 総会で承認された一般規程、 特別規程および技術規程の変更箇所

シングル&ペア・スケートティングに関する最も大きな変更点は以下のとおり。変更および/または追加部分を下線で表示する。

I. 一般規程

第108条、第3項 シングル&ペア スケートティング/アイスダンス 年齢制限

- a) 国際シニア競技会、ISU シニア選手権大会およびオリンピック冬季大会には、競技に先立つ7月1日より前に、少なくとも15歳に達しているスケーターが参加することができる。
- b) 国際ジュニア競技会およびISU ジュニア選手権大会では、ジュニアとは競技に先立つ7月1日より前に、次の要件を満たしているスケーターを指す。
 - i) 少なくとも13歳に達しており
 - ii) シングル競技 女子および男子については19歳に達していないこと そして
 - iii) ペア スケートティングとアイスダンス競技については、女子は19歳、男子は21歳に達していないこと
- c) ノービス国際競技会では、ノービスとは競技に先立つ7月1日より前に、次の要件を満たしているスケーターを指す。
 - i) 少なくとも10歳に達しており
 - ii) 15歳に達していないこと
 - iii) ペア スケートティングとアイスダンス競技については、女子は15歳、男子は17歳に達していないこと

II. 特別規程

スタートの遅れ

第350条、第2項

各スケーター/ペア/カップルはそれぞれの競技部分（ショートプログラム/ショートダンス、フリースケートティング/フリーダンスまたはパターンダンス）においてスタートの呼び出しをされてから少なくとも30秒以内に演技開始位置につかなくてはならない。

この時間が経過しても開始位置についていない場合は、規程353条 第1項 n) に従いレフェリーは（最終スコアから）1.0を減点する。 スタート呼び出しから60秒経過後に、まだ開始位置についていない場合は、棄権とみなされる。

ウォームアップグループの第一滑走者は、スタートの呼び出しから 30 秒の猶予時間が与えられる。そのため、上記のルールによる時間の測定は、30 秒の猶予時間経過後から始まる。
この変更により、以下がレフェリーの義務に追加される：

第 430 条, 第 1 項

- 開始位置につくまでに選手が要する時間を計り、規程に準じて棄権または減点を決定する。(第 350 条 参照)

得点掲示板がある場合、推奨するスタートの呼び出し手順は以下の通り：

- a) 選手が開始位置につくためにコールされる
- b) 掲示板の時計が 0 から秒数の計時を開始する
- c) 選手が 30 秒以内に演技開始位置についていない（掲示板の時計が 0:31, 0:32 のようになった）場合、レフェリーは “スタートの遅れ” による 1.0 を減点する
- d) 選手が 1 分以内に演技開始位置についていない（掲示板の時計が 1:01 になった）場合は、棄権となる
- e) ウォームアップグループの第一滑走者は、開始位置につくために追加の 30 秒が与えられる。時間は選手がスタートの呼び出しを受けた直後から計測される。コール後の最初の 30 秒は掲示板には時間が表示されないが、その直後から上記の手順 ((b), (c), (d)) を行う。

第 353 条, 第 1 項.h) v)

ペア フリースケーティングにおいて演技の後半に開始されるスロージャンプ、ジャンプ要素、リフトおよびツイストリフトに対しては 1.1 倍を乗じない。

第 420 条, 第 3 項.b) – 国際競技会における推奨ジャッジ数

パネルは可能であれば最小 5 名、最大 9 名から構成する。

第 430 条, 第 3 項 – テクニカルコントローラーの義務の変更点

テクニカルコントローラーのラウンドテーブルディスカッションへ参加は任意であり、テクニカルコントローラーの決定による。

III. 技術規程

第 502 条 (旧 第 501 条), 滑走時間

2. フリースケーティング

シニア：	男子 4 分 30 秒	女子 4 分	ペア 4 分 30 秒
ジュニア：	男子 4 分	女子 3 分 30 秒	ペア 4 分

第 612 条 (旧 第 512 条), 第 2 項

ダブルジャンプの繰り返し (フリースケーティング シングル):

いかなるダブルジャンプ (ダブルアクセルを含む) もシングル フリースケーティングにおいて (単独のジャンプもしくはコンビネーション/シーケンスの一部として) 2 回を超えて繰り返すことはできない。

第 612 条 (旧 第 512 条), 第 2 項

トリプルジャンプの繰り返し (フリースケーティング シングル):

すべてのトリプルとクワドラプルジャンプのうち 2 種類だけを 2 回行うことができる。これらのいずれかがコンビネーションまたはシーケンスの中で行われる場合は、どちらも通常どお

りに評価される。どちらも単独ジャンプで行われた時は、2 度目の単独ジャンプは本来の基礎値の 70%となる。

第 612 条 (旧 第 512 条), 第 2 項, 一般事項, 注釈, コレオグラフィック・シークェンス (フリースケーティング シングル)

コレオグラフィック・シークェンスは、ステップ、ターン、スパイラル、アラベスク、スプレッ・ドイーグル、イナ・バウアー、ハイドロブレーディング、2 回転までのあらゆるジャンプ、スピン などのあらゆる種類の動きから構成される。コレオグラフィック・シークェンスに含まれるリストにある要素はコールされず、枠を占めない。シークェンスの形状に制約はないが、明らかにそれとわかるものでなくてはならない。

テクニカルパネルは、最初のフリースケーティング動作をもって始まりとみなし、(コレオグラフィック・シークェンスがプログラム最後の要素でない場合は) 次の要素への準備をもって終了とみなす。この要素はステップ・シークェンスの前もしくは後に実施することができる。

この要素は基礎値を持ち、ジャッジのGOEのみで評価される。

第620条 (旧 第 520条), 第 3項

2014-2015シーズン ジュニアショートプログラム (ペア):

b) ツイスト・リフト (ダブルあるいはトリプル)

第621条 (旧 第521条), 第 2項, バランスの良いシニアのフリースケーティングプログラム (ペア)

最大3つのリフト、すべてがグループ 5 ではなく、...

第621条 (旧 第521条), 第 3項, バランスの良いジュニアのフリースケーティングプログラム (ペア)

最大2つのリフト、すべてがグループ 5 ではなく、...

第621条 (旧 第521条), 第 4項, 注釈, コレオグラフィック・シークェンス (フリースケーティング ペア)

コレオグラフィック・シークェンスは、ステップ、ターン (ツイズルは除く)、スパイラル、アラベスク、スプレッ・ドイーグル、イナ・バウアー、ハイドロブレーディング、2 回転までのあらゆるジャンプ、スピン、小さいリフト などのあらゆる種類の動きから構成される。コレオグラフィック・シークェンスに含まれるリストにある要素はコールされず、枠を占めない。シークェンスの形状に制約はないが、明らかにそれとわかるものでなくてはならない。

テクニカルパネルは、最初のフリースケーティング動作をもって始まりとみなし、(コレオグラフィック・シークェンスがプログラム最後の要素でない場合は) 次の要素への準備をもって終了とみなす。

この要素は基礎値を持ち、ジャッジのGOEのみで評価される。

IV. ISU コミュニケーション 第 1861 号の明確化

コールの方式を統一するために、記号 “s” および “a” は “m1” に、記号 “ss” は “m2” に変更される。

ミラノ,

2014 年 6 月 24 日

ローザンヌ

会長 **Ottavio Cinquanta**

専務理事 **Fredi Schmid**